

# 教育長だより

鹿児島県三島村教育委員会  
教育長

室之園晃徳



1958年生まれ。鹿児島大学教育学部卒業後、鹿児島県の教員として県内の小学校、鹿児島市教育委員会主任指導主事、大島教育事務所長、鹿児島市立田上小学校長を経て現職。全国一離島の学校数が多い鹿児島県で十年間離島教育に從事し、鹿児島県小学校長会長も務めた。

2018年11月、全国8県に伝承されている「ナマハゲ」など10件の行事が、「来訪神：仮面・仮装の神々」として、ユネスコ無形文化遺産に登録されました。

来訪神とは、人々の前に異様な風体で現れて災厄を祓い豊穣をもたらすとされる神々です。これら日本の10件は、いずれも古来の民間信仰や神観念を今に伝える行事で、奇習、奇祭として知られています。10件の中の三つは鹿児島県の伝統行事で、薩摩川内市の「トシドン」、十島村の「ボゼ」、そして三島村の「メンドン」です。

大きな耳、鼻、目、ケン（一本角）をもった奇怪な風貌のメンドン。手に持った神木で観客を叩き、悪霊を祓います。「天下御免」のメンドンには、誰も逆らうことは許されません。

エキゾチックでユーモラス、自由に暴れ回りますが憎めないキャラのメンドン。三島村には、それぞれの島に全く違う仮面神が伝えられています。島は、隔絶されているが故に独特の文化がそのままの形で受け継がれていますが、保存活動は危機に瀕している状況です。現在、伝統芸能継承活動に大きな役割を果たしているのは、学校や先生方、子どもたちです。

今、伝統文化を大切に思う心は育っているでしょうか。人々から忘れ去られてしまうことへの切実な危機感はあるでしょうか。現代に生きる我々にとって、時に伝統は面倒なものです。発展や進歩の妨げになることもあるかも知れません。

しかし、仮に自分の国から伝統や文化がなくなってしまったらどうでしょう。歌も踊りも、言葉も思考も精神も、外からの頂き物、モノマネ。そこには品格も誇りもありません。何十年、何百年と継がれていく物事は、それこそ奇跡のようなものです。伝統行事に触ると「この村のご先祖様たちは只者ではないぞ」と畏敬の念が自然と湧き上がってきます。自分とは何者なのか。どこから来てどこに行くのか。原点を見失ったら未来も失います。

ふるさとを誇れるから守りたいと思うのです。自分を愛せるから人も愛せるのです。昨今の社会現象となっている「鬼滅の刃」も、古来の伝説や精神文化、価値観などが、日本人の遗传子を刺激し、誇らしく思う気持ちや感動をかきたてている面もあるような気がします。

都市化が進む一方で、過疎の村では必死に守ろうとしている人たちがいます。直接の担い手とはいかなくとも、せめて関心をもち、伝統文化を応援する態度や心情を育んでいくことは国の発展に不可欠です。誇り高き文化の薰りが、地域を、そして国の価値を高めるのです。



薩摩硫黄島のメンドン

これで私も仲間入り

タンタタンタン いよいよ本番

タンタンタタンタンタン

弓矢おどり

じいちゃん 父ちゃん 姉ちゃんも

ずっとおどった弓矢おどり

今年は 私が太鼓をたたく

ハッピに白いたすきをかけて

わきに太鼓をグイッとはさみ

おどるみんなの真ん中を

走ってたたいてジャンプする

うたに合わせて

ひびけ 太鼓

(小3児童)



# 教育長だより

鹿児島県三島村教育委員会  
教育長

室之園晃徳



1958年生まれ。鹿児島大学教育学部卒業後、鹿児島県の教員として県内の小学校、鹿児島市教委主任指導主事、大島教育事務所長、鹿児島市立田上小学校校長を経て現職。全国一離島の学校数が多い鹿児島県で十年間離島教育に従事し、鹿児島県小学校長会長も務めた。

「生きる力」の理念にある「豊かな人間性」では「人間性」とは何か。辞書には「人間の本性、人間らしさ」とあります。「人間の本性」といえば、「善」だけとは限りません。自己実現を目指したり美しいものに感動したりするのも人間、いじめをするのも戦争をするのも人間。でも、一般的に「人間性が高い」とか「人間性を疑う」などは、そのポジティブな面に焦点を当てています。未熟な私などは、弱さや欠点があるからこそ「人間らしさ」だとうそぶき、失敗するたびに「いいじゃないか、人間だもの」(相田みつを)の詩に心が癒やされているのですが。

先日、JAXAの小惑星探査機「はやぶさ2」が無事帰還しました。6年間の宇宙空間の長旅を終え、「玉手箱」と呼ばれるお土産を持ち帰ってきました。初代「はやぶさ」は、7年間の大宇宙航海を全うしましたがその旅はトラブル続き。小さな惑星「イトカワ」に着陸、サンプルを採取した後、満身創痍になりながらも奇跡的に帰還しました。「もうダメだ。あきらめるしかない」という場面は何度もありましたが、まるで人格をもつかのように困難に耐え危機を乗り越えていきます。そして、自らは火の鳥のように真っ赤に燃え尽き、自分の子どものように大切に抱き続けたカプセルは無事に地球に送り届けました。今回の「はやぶさ2」は、ほぼノーミスで、小惑星「リュウグウ」から完璧なサンプルを地球に送り届けてから、何とまた新たなミッションへ。冒険はまだ終わっていないかったのです。

初代、二代と続くアドベンチャー。精巧なマシンではあるが生命をもたない「はやぶさ」の姿に多くの人たちが感動し、涙を流したのはなぜでしょう。それはその航海がまるで大いなる人間ドラマであり、そこに「人間性」を感じたからではないでしょうか。生きるということは常に順風ではなく、ストレス、不安、恐怖などにたびたび遭遇します。さまざまな問題を乗り越えていく経験の積み重ねが、自信や誇りとなって「豊かな人間性」を育む。そんな生き方こそが「生きる力」を身に付ける真の道である。そんな生き方への憧れが、ただ生きるのではなく、よりよく生きたいと願う人間だけがもつ「豊かな人間性」なのかも知れません。

宇宙の小さな点のような「リュウグウ」ですが、持ち帰ったサンプルからは、宇宙の成り立ちや生命の起源を解明するヒントが得られるかも知れないというのです。我が三島村も南の海に浮かぶ小さな三つの点です。でも、子どもたちには自信と誇りをもたせ、勇気を与える。教育の目的はそれに尽きると感じています。

この連載を通じて、改めて離島教育の「教育の原点」としての役割と、次の世代に送るカプセルの中身について、自分自身が考えを深めることができました。この連載も最終号。読者の皆様、エールをいただいた方々に感謝します。

## 島のヒーロー

台風が来て 島じゅう真っ暗  
てい電だ てい電だ 大さわぎ  
島のヒーロー すぐ出動  
朝から晩までがんばって  
みんなに電気をとどけるよ  
電気をつないだ島のヒーロー  
それが父ちゃん  
台風なんかに負けないぞ  
私の父ちゃん  
すごいでしょ  
(小4児童)

